

2020年度

講義概要

こころの時代を、ささえる人へ。

[介護福祉学科]

授 業 概 要			
人間の尊厳と自立	授業の種類		授業担当者
	講義		馬場学
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士が狭い経験や専門性だけに依拠せず、広く人間をとらえ、謙虚に学び続ける基礎とする。そして、そのうえに“福祉の目”を育てるために、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性、介護における倫理的課題について考えさせる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間とはの理解から始まり、福祉に関わることの意味と意義を多様な角度から考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 授業を通して、考えることの楽しさを知ることから、多様な価値観を持つことができる柔軟な思考ができるようになる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護福祉における人間の尊厳と自立の持つ意義		
2	人間の理解と福祉 1		
3	人間の理解と福祉 2		
4	人間の持つ様々な側面 1		
5	人間の持つ様々な側面 2		
6	その人に近づくために必要なもの		
7	人間の尊厳とは		
8	人権思想から考える人間の尊厳		
9	人間の尊厳と福祉 1		
10	人間の尊厳と福祉 2		
11	事例から人間の尊厳を考える		
12	介護福祉士の求められる倫理		
13	人間の自立・自律と福祉		
14	自立と自律		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座1(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
人間関係とコミュニケーション	授業の種類		授業担当者
	講義		熊崎正実
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護福祉士が狭い経験や専門性だけに依拠せず、広く人間をとらえ、謙虚に学び続ける基礎とする。そのうえで“福祉の目”を育てるために、人間の理解、および利用者のとらえ方、関係づくりに併せて、人間として必要なコミュニケーションの基礎を構造的につかむ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の心理学的理解から人間関係の心理、人間関係形成のプロセスを概観し、コミュニケーションの構成要素、態様をとらえ、コミュニケーション構造化する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] コミュニケーションの構造を理解し、介護福祉士として活動する場における自己のコミュニケーション課題を見出す。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	主体の構造(意識と無意識)		
2	認知の世界・ずれに対応		
3	受容と共感		
4	介護福祉士の理解・共感・分かる		
5	ストレスと防衛機制		
6	心のメカニズムと福祉的視点		
7	認知症対象者のとらえ方		
8	発達と人間関係		
9	成人期以降の人間関係(人間関係の形成)		
10	家族と人間関係・様々な視点		
11	コミュニケーションの定義・種類(コミュニケーションの基礎)		
12	コミュニケーションの構造		
13	介護福祉士に求められる理解力と表現力		
14	演習問題		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座1(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、出欠席	

授 業 概 要			
社会の理解 I	授業の種類		授業担当者
	講義		宮部浩二
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で生活を捉えられる視点を養う。 ・社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立の多様な側面、あるいは自立をキーワードとして個人と社会の関係を考える。 ・社会保障の諸制度を知識としてまとめるだけではなく、介護福祉士としての職業生活を営むうえで必要となる実践的知識を提供する。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会には様々な生活があり、ライフスタイルの多様化に伴って生活の変化がみられる。我々の生きるこの現代社会の諸制度を、介護福祉士が仕事を行う上で必要となる実践的知識として修得する。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活を幅広くとらえる		
2	生活の基本機能		
3	ライフスタイルの変化		
4	家族の機能と役割		
5	地域・地域社会		
6	地域社会における生活支援		
7	地域福祉の発展		
8	地域共生社会		
9	地域包括ケア		
10	社会保障の基本的な考え方		
11	日本の社会保障制度の発達		
12	日本の社会保障制度のしくみ ①		
13	日本の社会保障制度のしくみ ②		
14	現代社会と社会保障制度		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座2(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、ミニテスト、課題レポート、出欠席、授業態度	

授 業 概 要			
社会の理解Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	講義		宮部浩二
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度、そして個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識まで、介護実践に必要とされる観点からの理解を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護保険制度および障害者自立支援制度、そして介護実践に関わるための諸制度について、身近な事例から考えてみる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護保険制度と障害者福祉施策について十分に理解を深めたうえで、介護実践に必要とされるその他の諸制度を習得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	高齢者保健福祉の動向		
2	高齢者保健福祉に関連する法体系		
3	介護保険制度 ①		
4	介護保険制度 ②		
5	介護保険制度 ③		
6	障害者保健福祉の動向		
7	障害者保健福祉に関連する法体系		
8	障害者総合支援制度 ①		
9	障害者総合支援制度 ②		
10	障害者総合支援制度 ③		
11	個人の権利を守る制度・施策		
12	保健医療に関する制度・施策		
13	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策		
14	地域生活を支援する制度・施策		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座2(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、ミニテスト、課題レポート、出欠席、授業態度	

授 業 概 要			
老人福祉論	授業の種類		授業担当者
	講義		野田裕史
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 老人福祉は児童福祉、障害者福祉とともに福祉の3本柱の一つである。今後ますます65歳以上の高齢者が増加すると予測されている。老人福祉に従事する者として、わが国の高齢者問題を熟知し、高齢者に対する法と諸施策、支援の体系について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義を中心とし、毎回プリントや資料配布を行い学習をすすめる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 現代における高齢者問題を考え、介護福祉士が関わる高齢者と社会の諸制度の関連を修得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	少子高齢化社会の到来		
2	高齢者と取り巻く状況と諸問題と課題		
3	高齢化社会に対応するためには、どのような国の対策が必要か、国の制限と対応について学ぶ。		
4	地域社会や高齢者の置かれている現状を学ぶ。		
5	老人福祉法の制定と改正の経緯、その法の内容について学ぶ。		
6	介護保険制度創設のねらいと制度の概要について学ぶ。		
7	介護保険制度の保険給付の種類と法の改正の概要について学ぶ。		
8	老人保健法の事業概要と医療及び特定療養費の支給について学ぶ。		
9	高齢者に対するその他の諸施策、年金や雇用、用具の貸付けなどを学ぶ。		
10	各種の福祉系施設サービスのその目的や内容について学ぶ。		
11	各種の医療系施設サービスのその目的や内容について学ぶ。		
12	在宅福祉サービスの目的や内容、提供の方法について学ぶ。		
13	高齢者支援の体系と実際		
14	高齢者支援の体系と実際		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座2(株)中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート、授業態度</p>	

授 業 概 要			
音楽	授業の種類		実務経験の有無
	演習		有
授業の回数	時間数	担当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護現場或いは日々の生活の中で音・音楽を通して高齢者とのコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実際の現場で即応できる実践的な授業を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 課題提出およびレポート提出、理解度を確認する試験の実施</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護現場で役立つ音遊び 1		
2	介護現場で役立つ音遊び 2		
3	サウンドスケープ		
4	高齢者の心に響く音・音楽 1		
5	高齢者の心に響く音・音楽 2		
6	手話と音楽 1		
7	手話と音楽 2		
8	音遊ビリテーション 1		
9	音遊ビリテーション 2		
10	音楽回想法 1		
11	音楽回想法 2		
12	音楽回想法 3		
13	要介護度別音楽コミュニケーション		
14	ターミナルケアでの心を癒す音・音楽		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●随時資料配布		[単位認定の方法及び基準] 課題作品提出、レポート課題、理解度を確認する試験の実施(授業中)	

授 業 概 要			
情報処理	授業の種類		授業担当者
	演習		矢島親男
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	無 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 社会常識となりつつあるパソコン知識を習得し、「情報」を活用するための操作(オペレーション)を主とし、オペレーション技術の到達とWeb利用の基礎を学び、情報活用の基本的知識と技能を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士の実践研究におけるデータ活用のため、統計学の活用を学ぶ。簡単な関数を使用してデータベース概念の一端を演習を通じて習得。各種研究発表の場面で活用できるようにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ワープロ、表計算、Web(インターネット検索・e-Mail)操作。ホームページ作成、プレゼンテーションツールの操作等々。入門レベルのオペレーション技術の習得。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	パソコンの操作 1		
2	電子メールの基礎		
3	ワープロの基礎 1		
4	ワープロの基礎 2		
5	ワープロの基礎 3		
6	ワープロの基礎 4		
7	ワープロの基礎 5		
8	ワープロの基礎 6		
9	ワープロの基礎 7		
10	表計算の基礎 1		
11	表計算の基礎 2		
12	表計算の基礎 3		
13	表計算の基礎 4		
14	プレゼンテーションツールの活用 1		
15	プレゼンテーションツールの活用 2		
[使用テキスト・参考文献] ●windows10対応 30時間でマスター office2016		[単位認定の方法及び基準] ・学則第16条の1、2、3、4、5項を基準とする。 提出物の提出状況及び出席率40%、定期試験60% 上記比率の下、60点以上のものを合格として単位認定	

授 業 概 要			
医学一般	授業の種類		授業担当者
	講義		伊藤知美
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] プロの介護者として正しい医学情報把握により保健医療従事者と連携がとれるだけの医学知識を身につけるため、人体の基本的な構造や機能、代表的な疾患に関する概要を理解するとともに、保健医療に関する基礎知識を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 代表的な疾患に関する概要を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保健医療従事者と連携がとれるだけの医学知識を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活習慣病と未病		
2	悪性腫瘍の理解		
3	脳血管疾患の理解		
4	心疾患の理解		
5	高血圧症の理解		
6	糖尿病と内分泌疾患の理解		
7	呼吸器疾患の理解		
8	消化器疾患の理解		
9	血液疾患と膠原病の理解		
10	腎臓疾患の理解		
11	泌尿器系疾患の理解		
12	骨・関節疾患の理解		
13	目・耳の疾患の理解		
14	感染症の理解		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●新・社会福祉士養成講座1(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
介護概論 I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	飛田いく子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の対象である「人間」と「生活」について、その本質を見つめ、考察できるようになることで、介護福祉士の役割と機能を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護、福祉分野の範疇にとどまらず、「人間が生きて生活する」という基本的な意味と仕組みを理解し、人間・社会・健康など包括的、総体的に捉えることができるように幅広い知識と解釈を提供する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護・福祉の理念に基づいた介護実践ができる。 ・対象の個別性を理解し、自立生活への課題を的確に捉え、安全に支援できる。 ・介護福祉士としての心構えを身につける。 			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護とは・成り立ち		
2	介護問題と社会福祉政策		
3	老人福祉法による介護問題への対応		
4	介護の概念の変遷1970年代		
5	介護の概念の変遷1980年代		
6	介護の概念の変遷1990年代		
7	介護の概念の変遷2000年代		
8	介護福祉の基本理念		
9	地域包括ケアシステム		
10	人生の最終段階の支援		
11	災害時の支援		
12	社会福祉士法及び介護福祉士法		
13	介護福祉士養成カリキュラムの変遷		
14	日本介護福祉士会の倫理		
15	前期振り返り、まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規 ●福祉小六法2019年版(株)みらい ●介護福祉用語辞典 7訂(株)中央法規 ●国民の福祉と介護の動向2018/2019(一財)厚生労働統計協会 		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験、 課題レポート</p>	

授 業 概 要			
介護概論Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	講義		飛田いく子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護における日常生活支援の基本を理解し、介護実践の基本原則と方法を習得し、利用者主体の生活支援の能力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉の基盤となる生活の支援において、「生きがいのある生活」とは何かを理解し、その生活の経営と管理について考え、対象並びに介護者の安全に配慮した介護実践の方法を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護福祉の基本原則を理解し日常生活支援に具体的に応用することができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	日本介護福祉士会の倫理綱領		
2	介護福祉士の倫理		
3	自立に向けた介護福祉士のあり方、自立支援		
4	ICFの考え方		
5	自立支援とリハビリテーション		
6	リハビリテーションの考え方、背景		
7	リハビリテーションの実際		
8	リハビリテーション 障害の評価方法		
9	自立支援と介護予防		
10	介護予防の実際		
11	生活の理解		
12	介護福祉を必要とする人の暮らし		
13	生活を支えるフォーマルサービス		
14	「その人らしさ」と「生活ニーズ」		
15	後期振り返り、まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規 ●福祉小六法2019年版(株)みらい ●介護福祉用語辞典 7訂(株)中央法規 ●国民の福祉と介護の動向2018/2019(一財)厚生労働統計協会		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
介護概論Ⅲ	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の実践されるさまざまな場を理解し、介護を取り巻く関連領域への理解を深め、対象にとって必要な支援を総合的に判断できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉サービスの提供に関わる他の職種との連携をスムーズに行うためそれぞれの制度の仕組みを理解し、対象に最適のサービス提供を実現するための知識・技術を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] いろいろな場における介護において、利用者の個別性を尊重した介護サービスを提供できるような計画・実践力を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護における職能団体		
2	気合後福祉士の倫理		
3	入所系サービスの特性と場		
4	地域密着サービス等		
5	他職種連携		
6	地域連携(1)		
7	地域連携(2)		
8	地域連携に関わる機関の理解		
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント		
10	事故防止、安全対策		
11	感染・管理のための方策		
12	健康管理の意義と目的		
13	在宅で暮らすこと		
14	安心して働ける環境づくり		
15	振り返り、まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座3、4(株)中央法規 ●福祉小六法2019年版(株)みらい ●介護福祉用語辞典 7訂(株)中央法規 ●国民の福祉と介護の動向2018/2019(一財)厚生労働統計協会		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
リハビリテーション論	授業の種類		授業担当者
	講義		濱島光宏
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] リハビリテーションの理念を理解し、援助技術としてのケアとの接点について学ぶ。さらに、自立にむけた介護を支援するリハビリテーションとの関係性についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] リハビリテーションの一般的な基礎知識と介護の仕事として知っておくべき医学的リハビリテーションの道程について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] リハビリテーションの基本原則、障害の程度とその影響、日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助について等を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	リハビリテーションとは		
2	自立にむけた介護を支援するリハビリテーション		
3	リハビリテーションの過程について		
4	介護保険におけるリハビリ		
5	脳卒中におけるリハビリテーション		
6	整形外科のリハビリテーション		
7	内科疾患におけるリハビリテーション		
8	脊髄損傷におけるリハビリテーション		
9	特定疾患のリハビリテーション		
10	発達障害に対するリハビリテーション		
11	ADLを支援する機器		
12	訪問リハビリテーション		
13	グループワーク		
14	住居の改善		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●リハビリテーション論(株)メジカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
レクリエーション 活動援助法 I	授業の種類		授業担当者
	演習		伊藤昭治
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉(介護)レクリエーションの基礎知識を身に付け、数々のレクリエーション活動を知り、援助・支援する技術もあわせて学とともに、自らも福祉介護現場での実践に役立てる援助者・支援者になることを目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・実技</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] レクリエーション活動の楽しさを知り、レクリエーション支援の目標・理念から展開方法を学び、レクリエーションの主体を捉えた支援者としての理解をする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	楽しいレクリエーション体験		
2	レクリエーションの基本的理解(コミュニケーション・ワークとは)		
3	コミュニケーション・ワーク①(アイスブレイク)		
4	コミュニケーション・ワーク②(ホスピタリティ)		
5	コミュニケーション・ワーク③(ホスピタリティ)あいさつトレーニング		
6	コミュニケーション・ワーク④(伝達技術)		
7	ウエルフェア見学と講演聴講(レク・インストラクター取得のための福祉産業展見学)		
8	コミュニケーション・ワーク⑤(伝達技術)カードを使って、観光案内図を使って		
9	コミュニケーション・ワーク⑥(伝達技術)ロープを使って		
10	介護レクリエーション支援①(介護福祉サービスにおけるレク支援)		
11	介護レクリエーション支援②(レクリエーションとは)		
12	介護レクリエーション支援③(3つの生活)		
13	介護レクリエーション支援④(レク支援者の役割)		
14	介護レクリエーション支援⑤(レク支援者の配慮)		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●適宜資料配布 ●一人ひとりが輝くレクリエーションプログラム(株)中央法規 ●高齢障害者のためのグループレクリエーション楽しいゲーム204(公財)日本レクリエーション協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験、レポート課題、併せて出席率、理解度、授業態度、提出等で評価 ※実技を伴う授業のため、運動のできる服装(ジャージ)</p>	

授 業 概 要			
レクリエーション 活動援助法 II	授業の種類		授業担当者
	演習		伊藤昭治
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 福祉(介護)レクリエーション活動の知識やその方法等を具体的に身に付け、介護福祉での実践に役立てることを目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] レクリエーション計画と実行を確実にし、実際のレクリエーション活動で展開、福祉的活動のアレンジ方法を研究する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	長生きの時代		
2	レクリエーション計画の作成と実行・評価		
3	レクリエーション計画①(レクリエーションプログラムを展開する前に)		
4	レクリエーション計画②(レクリエーション計画の目的)		
5	レクリエーション計画③レクリエーション活動の実施課程		
6	レクリエーション計画④レクリエーション企画の3原則		
7	介護現場でのレクリエーション		
8	レクリエーションの素材		
9	レクリエーションプログラムの楽しさ①		
10	レクリエーションプログラムの楽しさ②(風船バレーを考える)		
11	レクリエーションプログラムの楽しさ③(Aさんにとっての楽しいプログラム、行動変容)		
12	対象者に合わせたレク・ワーク①(アレンジ)活用分析活用表		
13	レクリエーション実施①(実技指導の場面①)		
14	レクリエーション実施②(実技指導の場面②)		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●適宜資料配布 ●一人ひとりが輝くレクリエーションプログラム(株)中央法規 ●高齢障害者のためのグループレクリエーション楽しいゲーム204(公財)日本レクリエーション協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 定期試験、レポート課題、併せて出席率、理解度、授業態度、提出等で評価 ※実技を伴う授業のため、運動のできる服装(ジャージ)</p>	

授 業 概 要			
コミュニケーション 技術 I	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間関係の形成と実践技術としてのコミュニケーション技術の修得をねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] さまざまな介護場面や心身の状況に応じたコミュニケーションの技法を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] コミュニケーションの持つ機能に合わせた技法の修得と実践する力をつける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護におけるコミュニケーションの基本 目的と意義		
2	コミュニケーションの基本		
3	介護技術とコミュニケーション		
4	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 利用者・家族との信頼関係の形成		
5	アセスメントにつながるコミュニケーション		
6	話を聴く技法		
7	利用者の感情表現を察する技法		
8	利用者の納得と同意を得る技法		
9	質問の技法・相談・援助・指導の技法		
10	利用者の意欲を引き出す技法		
11	利用者と家族の意向を調整する技法		
12	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法		
13	コミュニケーション障害とその原因		
14	利用者の特性に応じたコミュニケーション		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座5(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、レポート課題、授業態度	

授 業 概 要			
コミュニケーション 技術Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	演習		野村敬子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実践に直結するコミュニケーション技術を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] さまざまな障害形態と、障害形態に則したコミュニケーションの方法を学ぶ。当事者からの声を聞くことで、介護福祉士としての視野を広げることで障害者への理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護福祉士としての視野を広げ、多様な障害を持つ人へのコミュニケーション対応と記録の意義の理解を深める。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	利用者の特性に応じたコミュニケーション 1 高次脳機能障害のある人		
2	利用者の特性に応じたコミュニケーション 2 失語症・構音障害のある人		
3	利用者の特性に応じたコミュニケーション 3 認知症・若年認知症のある人		
4	利用者の特性に応じたコミュニケーション 4 視覚・聴覚に障害がある人		
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション 5 知的障害・精神障害のある人		
6	介護におけるチームワークのコミュニケーションとは		
7	チームコミュニケーションの方法		
8	介護における記録の意義と目的・記録の種類		
9	記録の書き方の留意点		
10	記録の活用		
11	情報の保護と管理 1		
12	情報の保護と管理 2		
13	報告・連絡・相談の意義と目的、留意点		
14	介護の意義・目的・種類・留意点		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座5(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、レポート課題、授業態度	

授 業 概 要			
家政学概論	授業の種類		授業担当者
	講義		後藤珠理
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 生活とはどのように構成されているかを知ることから、衣食住全般にわたり基礎的な理解ができるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義を中心として、演習に結びつく基礎学習を生活全般にわたり学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 生活の意味と意義を修得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活の理解		
2	家庭生活の意義		
3	生活支援とは		
4	生活支援を必要とする人への理解		
5	自立に向けた家事の介護		
6	家事の意義と目的		
7	家事に関する基礎知識		
8	家事の介護の基本		
9	家事に関するアセスメントと目標設定		
10	家事に参加することを支える介護 1		
11	家事に参加することを支える介護 2		
12	家事の介助の方法		
13	他の職種の役割と協働		
14	事例から考えてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●生活学 Navi 資料+成分表 2019(株)実教出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
家政学 I (住居)	授業の種類		授業担当者
	演習		児玉道子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。地域と居住環境を学ぶことにより、地域で暮らし続けることの意義を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義を中心としながら、高齢者・障害者が暮らす居住環境を学ぶことから、安心できる居住環境を考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域との連携の中で、介護福祉が果たす役割と協働について理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	I.居住環境の整備の意義と目的(第2章1節)		
2	I.安心で快適な生活の場づくり(第2章2節)		
3	II.福祉住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方(第4章1節・2節)		
4	II.福祉住環境整備関連職への理解と連携、相談援助の実践的な進め方(第4章3節・4節)		
5	II.福祉住環境整備の共通基本技術(第5章2節)		
6	II.生活行為別福祉住環境整備の手法(第5章2節)		
7	II.福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識(第5章補節)		
8	II.福祉用具の意味と適用(第6章1節)		
9	II.生活行為別にみた福祉用具の活用(第6章2節)		
10	II.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備①A～C(第3章1節)		
11	II.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備②D～F(第3章1節)		
12	II.高齢者に多い疾病別にみた福祉住環境整備③G～I(第3章1節)		
13	II.障害別にみた福祉住環境整備①A、B		
14	II.障害別にみた福祉住環境整備①C、D、E		
15	まとめ I.住まいの管理(第2章2節)		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト(株)社会保険研究所		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
家政学Ⅱ (栄養・調理)	授業の種類		授業担当者
	演習		早川雅代
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 栄養に関する基礎知識を学び、基本的な調理方法を学ぶ。包丁の持ち方からはじまり、食材の扱い方、切り方、食事の嚥下困難な方への食材の工夫を実習を通して学ぶ。自立にむけた食事の介護への視点を養うことも大きな目的である。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習を中心として、グループ学習として進める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 利用者の障害に合わせた食材の準備、調理が実践できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	生活の理解		
2	栄養に関する基礎知識 1		
3	栄養に関する基礎知識 2		
4	高齢者・障害者の食事の特徴		
5	食事環境や福祉用具の活用方法		
6	食事に関するアセスメントと目標設定		
7	自立にむけた食事の介護		
8	利用者の状態・状況に応じた食事介助の留意点(嚥下困難者・脱水予防)		
9	利用者の状態・状況に応じた調理の留意点		
10	利用者の状況に応じた調理 1(食材の切り方基本)		
11	利用者の状況に応じた調理 2(カロリー制限のある方への調理方法)		
12	利用者の状況に応じた調理 3(嚥下しやすい調理方法)		
13	利用者の状況に応じた調理 4(塩分制限のある方への調理方法)		
14	利用者の状況に応じた調理 5(ユニバーサルレシピ:誰もが食べやすい調理方法)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●生活学 Navi 資料+成分表 2019(株)実教出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
家政学Ⅲ (衣生活)	授業の種類		授業担当者
	演習		後藤珠梨
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本である“人間”と“生活”について、その本質を理解できるようになる。衣生活がどのように行われているかを学ぶことから、QOL向上を目指す意義を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 衣服管理の基本的技術を学ぶことから、支援を必要とする人への衣生活への援助方法を修得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 基本的な手縫いの技術修得、簡単な作品を作成することで、衣生活で介護福祉士が果たす役割を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立にむけた家事の介護		
2	家事に関する基礎知識 1 (衣生活)		
3	家事に関する基礎知識 2 (衣生活)		
4	家事に関するアセスメントと目標設定 1 (衣生活)		
5	自立に向けた衣類工夫 1		
6	自立に向けた衣類工夫 2		
7	衣生活 1		
8	衣生活 2		
9	衣生活 3		
10	衣生活 4		
11	衣生活 5		
12	衣生活 6		
13	衣生活 7		
14	他の職種の役割と協働		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6(株)中央法規 ●生活学 Navi 資料+成分表 2019(株)実教出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (移動)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 移動とは、単に空間から空間への移動を助けるものではない。単純な移動動作の中に、利用者の現存する能力を自ら発揮できる援助方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ボディメカニクスの原理を十分に理解し、それぞれの利用者の身体の状況に応じた移動援助方法を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・利用者の安全安楽を念頭に置いた移動援助が提供できる。 ・ボディメカニクスの原理を応用し、利用者に対しより安全で安楽な介助が提供できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立した移動とは		
2	移動動作の基本的理解(ボディメカニクス)		
3	車いす介助と杖歩行介助		
4	自立に向けた移動の介護 (車いす介助・杖歩行介助)		
5	体位変換の介助		
6	自立に向けた移動の介護 (片麻痺がある利用者の水平移動・上方移動)①		
7	自立に向けた移動の介護 (片麻痺がある利用者の水平移動・上方移動)②		
8	自立に向けた移動の介護 (全般にわたり介助が必要な利用者の水平移動・上方移動)①		
9	自立に向けた移動の介護 (全般にわたり介助が必要な利用者の水平移動・上方移動)②		
10	自立に向けた移乗の介護 (片麻痺がある利用者の介助 ベッド⇄車いす)①		
11	自立に向けた移乗の介護 (片麻痺がある利用者の介助 ベッド⇄車いす)②		
12	自立に向けた移乗の介護 (全般にわたり介助が必要な方の介助 ベッド⇄車いす)①		
13	自立に向けた移乗の介護 (全般にわたり介助が必要な方の介助 ベッド⇄車いす)②		
14	復習		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、実技試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (食事)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 食事は生命を維持するためだけではなく、他者との交流の場であったり一日の生活リズムを作ったり、精神的にも生活の充実を図ることができる。楽しく安全な食事ができるように障害に合わせた食事介助ができるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 嚥下のメカニズムを知り、より安全に楽しく食事ができるように利用者に適した食事援助の方法について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 食事介助に必要なアセスメント視点を理解し、個々の身体状況や習慣に合った食事への配慮を理解し、個別性に応じた技術を修得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立した食事の介護		
2	嚥下のメカニズム		
3	食事の介護の基本		
4	高齢者・障害者の食事の特徴		
5	食事に関するアセスメントと目標設定 1		
6	食事に関するアセスメントと目標設定 2		
7	安全的確な食事のアセスメントと介助の方法 1		
8	安全的確な食事のアセスメントと介助の方法 2		
9	安全的確な食事のアセスメントと介助の方法 3		
10	安全的確な食事のアセスメントと介助の方法 4		
11	利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 1		
12	利用者の状態・状況に応じた食事の介助の留意点 2		
13	他の職種の役割と協働		
14	事例から考えてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (入浴・清潔保持)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 身体を清潔にすることは生理機能を高め、気分を爽快にするだけでなく他者との関わりや社会参加においても重要である。その人らしい生活の維持のため身体状況に合わせた自立支援を考えた援助ができるようになる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 身体各部の清潔が身体や精神に及ぼす影響を知り、利用者の状態に合わせた清潔に関する介護技術について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 入浴・清潔保持の意義やアセスメント視点を理解し、身体状況に適した介護の清潔援助方法を選択することができ、安全でプライバシーの保護に配慮した清潔の介助ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立した入浴、清潔の保持とは		
2	自立に向けた入浴、清潔の保持の介護の基本		
3	高齢者・障害者の入浴の特徴		
4	入浴、清潔保持環境や福祉用具の活用方法		
5	入浴に関するアセスメントと目標設定		
6	安全的確な入浴のアセスメントと介助の技法 1 (一般浴)		
7	安全的確な入浴のアセスメントと介助の技法 2 (シャワー浴)		
8	安全的確な入浴のアセスメントと介助の技法 3 (機械浴)		
9	安全的確な清潔保持のアセスメントと介助の技法 1 (部分浴)		
10	安全的確な清潔保持のアセスメントと介助の技法 2 (全身清拭)		
11	安全的確な清潔のアセスメントと介助の技法 3 (ベッド上での洗髪)		
12	利用者の状態・状況に応じた入浴の介助の留意点		
13	他の職種の役割と協働		
14	事例からかんがえてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (排泄)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 生命維持に欠くことのできない排泄のメカニズムを知り精神や身体に与える影響を理解する。排泄障害の違い利用者の方の状況に合わせて自尊心や羞恥心に配慮した介助ができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 排泄のメカニズムを理解し、排泄障害のある利用者の方の状況に合わせた排泄介助方法を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 排泄に必要なアセスメント視点を理解し、身体状況に合わせた介助方法が選択できる。 排泄のための福祉用具を活用して状態に合わせた介助方法を修得する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立した排泄とは		
2	自立に向けた排泄の介護の基本		
3	排泄のメカニズム		
4	排泄に関するアセスメントと目標設定 1		
5	排泄に関するアセスメントと目標設定 2		
6	安全的確な排泄のアセスメントと介助の方法 1		
7	安全的確な排泄のアセスメントと介助の方法 2		
8	安全的確な排泄のアセスメントと介助の方法 3		
9	安全的確な排泄のアセスメントと介助の方法 4		
10	利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 1		
11	利用者の状態・状況に応じた排泄の介助の留意点 2		
12	高齢者・障害者の排泄の特徴		
13	排泄環境や福祉用具の活用方法		
14	他の職種の役割と協働		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (睡眠・身じたく)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 生活習慣と装いの楽しみを支える介護を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 身支度の意義、その人らしい自己表現から社会性の回復への援助方法を理解していく。 睡眠支援を通して利用者の生活の質の向上を目指した援助方法が理解できる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 個々の身体状況や価値観に合った生活習慣や身支度の具体的な援助の方法を身に付けることが出来る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	自立した身じたくとは		
2	身じたくに関する基礎知識		
3	身じたくに関するアセスメントと目標設定		
4	生活習慣と装いの楽しみを支える介護		
5	口腔の清潔 1		
6	口腔の清潔 2		
7	衣類の着脱 1		
8	衣類の着脱 2		
9	利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点		
10	休息・睡眠とは		
11	睡眠の意義と目的メカニズム・高齢者の睡眠の特徴		
12	安眠に対する援助方法・安楽な体位を理解する。		
13	睡眠に関するアセスメントと目標設定		
14	他の職種の役割と協働		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (終末期の介護)	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
実務経験の有無			有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 終末期における尊厳を持った人としてかかわることを理解する事ができる</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護福祉士として終末期のケアへの関わりを学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 終末期における尊厳を持った人としてかかわる介護の知識・技術を身につける事が出来る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	終末期とは		
2	終末期の介護の基本1		
3	終末期の介護の基本2		
4	終末期の状態		
5	終末期における利用者のアセスメント		
6	終末期における介護(居宅で)		
7	終末期における介護(施設で)		
8	多職種との連携		
9	臨終期における介護		
10	死後のケア		
11	グリーフケア		
12	終末期の介護の実際		
13	事例から考えてみよう		
14	事例から考えてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、演習参加状況、出欠席	

授 業 概 要			
生活支援技術 (介護予防とレクリエーション)	授業の種類		実務経験の有無
	演習		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の基本である“ひと”と“生活”についてレクリエーションを通して、その本質を理解できるようになる。また、介護予防の視点から生活支援を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護福祉士として、介護予防レクリエーション活動を理解し、対象者と一緒に展開する方法と種目を学ぶ。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護予防とは		
2	介護予防に必要な取り組み		
3	介護予防に必要な取り組み①介護予防に必要な4つの取り組み		
4	介護予防に必要な取り組み②運動のメリット		
5	栄養について		
6	高齢者に対する理解		
7	高齢者特有の疾患等(ロコモ予防体操)		
8	運動に関する基礎知識(レクリエーションも含めて)		
9	有酸素(性)運動の知識(レクリエーションも含めて)		
10	高齢者と筋力トレーニング		
11	バランス力を高める		
12	脳・神経系を鍛える①コグニサイズ		
13	脳・神経系を鍛える②シナプソロジー		
14	座って行う		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座6,7,8(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、レポート課題、併せて出席率、理解度、授業態度、提出等で評価 ※実技を伴う授業のため、運動のできる服装(ジャージ)	

授 業 概 要			
介護過程 I	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義、目的・目標を知る。 情報収集とアセスメント、課題の設定を知る。 ICFの考え方を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習を交えながらICFの考え方に添って、介護過程とは何かを学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ICFの視点からケアを考えることができるようになる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の意義		
2	介護過程とは何か		
3	介護過程の展開を理解する		
4	介護過程の目的 1		
5	介護過程の目的 2		
6	介護の目標		
7	介護過程に必要な情報 1		
8	介護過程に必要な情報 2		
9	介護過程に必要な情報 3		
10	ICFの理解 1		
11	ICFの理解 2		
12	ICFの視点に基づいた情報収集の理解		
13	ICFの視点からケアを考える 1		
14	ICFの視点からケアを考える 2		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、出欠席および平常点、提出物を総合して評価	

授 業 概 要			
介護過程Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	講義		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] ニーズの把握・課題の分析ができる。 情報の分析を学ぶ。 シミュレーション作成の計画・修正を行う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習とすすめ、シミュレーションでの個別介護過程の展開をする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ICFの視点に添った介護過程の計画を立てる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の展開の確認		
2	介護過程におけるニーズをみる視点		
3	ニーズを捉える視点		
4	「ニーズ」と「課題」の関係		
5	介護過程の展開 1 アセスメント 介護過程におけるアセスメントの概要		
6	情報収集		
7	情報の分析・統合によるニーズの明確化と課題の抽出		
8	課題の優先順位の決定		
9	介護過程の展開 2 介護計画の立案 介護計画の意義		
10	目標の設定		
11	援助方法の立案		
12	介護計画の書き方 1		
13	介護計画の書き方 2		
14	介護計画をグループ内で考えてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、出欠席および平常点、提出物を総合して評価	

授 業 概 要			
介護過程Ⅲ	授業の種類		授業担当者
	講義		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 実際の事例を基に介護過程を展開。シミュレーションで介護計画を立案し実践力を身に付ける。介護過程の実施、評価・修正について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習とすすめ、シミュレーションの際は実際に受け持った利用者の事例を使用する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ICFの視点に添った介護過程の展開が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の展開の復習①		
2	介護過程の展開の復習②		
3	情報収集シートの活用方法①		
4	情報収集シートの活用方法②		
5	介護過程の実践的展開 1(介護実習Ⅰ-2 受け持ち利用者の事例)		
6	介護過程の実践的展開 2		
7	介護過程の実践的展開 3		
8	介護過程の実践的展開 4		
9	介護過程の実践的展開 5		
10	介護過程の展開 3 介護過程における「実施」の意義と実施時の留意事項		
11	実施記録の書き方		
12	介護過程の展開 4 評価の意義と介護過程における位置づけ		
13	介護計画の評価・修正		
14	介護過程とケアマネジメント		
15	介護過程とチームアプローチ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 課題レポート、出欠席	

授 業 概 要			
介護過程Ⅳ	授業の種類		授業担当者
	講義		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 様々な種別の利用者の実際の事例を使用し、介護過程を展開。シミュレーションで介護計画を立案し、利用者のニーズに合わせた支援をするための力を身に付ける。 グループワークを通し、チームケアの重要性について理解するとともに、視点や視野を広げる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 演習を中心に、実際の利用者の計画立案を体得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 利用者のニーズに合わせた介護過程の展開について理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の実践的展開 1(介護老人保健施設の利用者の事例)		
2	介護過程の実践的展開 2		
3	介護過程の実践的展開 3		
4	介護過程の実践的展開 4(特別養護老人ホームの利用者の事例)		
5	介護過程の実践的展開 5		
6	介護過程の実践的展開 6		
7	介護過程の実践的展開 7(障害者支援施設の利用者の事例)		
8	介護過程の実践的展開 8		
9	介護過程の実践的展開 9		
10	介護過程の実践的展開 10(認知症対応型共同生活介護の利用者の事例)		
11	介護過程の実践的展開 11		
12	介護過程の実践的展開 12		
13	介護過程の実践的展開 13(居宅サービス利用者の事例)		
14	介護過程の実践的展開 14		
15	介護過程の実践的展開 15		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 課題レポート、出欠席	

授 業 概 要			
介護過程 V	授業の種類		授業担当者
	講義		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 利用者の個別性に応じた計画作成の意義を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 演習を中心とし、実習中に担当した利用者の介護計画の評価・見直しをする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 講義・演習を通して、様々な障害を持つ人への個別の生活目の実際を統括できる。標を応じ介護過程計画の必要性をまなぶとともに、介護過程の総合的な学習とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護過程の実際		
2	肢体不自由者へのICFの視点による介護過程の展開		
3	肢体不自由者の生活目標		
4	肢体不自由者の介護計画・実践・評価		
5	内部障害者へのICFの視点による介護過程の展開		
6	内部障害者への生活目標		
7	内部障害者への介護計画・実践・評価		
8	知的障害者へのICFの視点による介護過程の展開		
9	内部障害者への生活目標		
10	知的障害者への介護計画・実践・評価		
11	コミュニケーション障害を持つ人への介護計画・実践・評価		
12	在宅で暮らす人への介護計画・実践・評価 1		
13	認知症高齢者への介護計画・実践・評価		
14	若年性認知症への介護計画・計画実践・評価		
15	振り返り		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座9(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 課題レポート、出欠席	

授 業 概 要			
介護総合演習 I	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習全体の流れを理解し、実習に必要な知識と技術を身につける。通所施設で支援を受けながら地域で生活をしている高齢者の理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習が円滑に行えるよう、オリエンテーションを行う。実習を行うための実習先の理解と利用者を理解するための知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 学内で学んだ専門的な知識や技術を確認しながら、利用者の理解を深め、効果的な実習が行えるように実習にむけて準備ができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	介護実習の意義と目的		
2	介護福祉士の専門性と倫理、介護実習(実習 I - 1)の目的の理解		
3	実習施設・利用者の理解①		
4	実習施設・利用者の理解②		
5	実習施設・利用者の理解③		
6	実習施設・利用者の理解④		
7	実習 I - 1について①		
8	実習 I - 1について②		
9	実習 I - 1について③		
10	実習 I - 1について④		
11	実習に向けての基本的なマナーを学ぶ		
12	実習関連書類について①		
13	実習関連書類について②		
14	実習関連書類について③		
15	実習関連書類について④		
[使用テキスト・参考文献] ●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社		[単位認定の方法及び基準] 小テスト、授業態度、出欠席、課題レポート	

授 業 概 要			
介護総合演習Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 密着型の認知症対応型共同生活介護(グループホーム)での実習を通じて、認知症高齢者を理解するとともに、認知症の人の「その人らしい」生活とはどのようなものか理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習が円滑に行えるよう、オリエンテーションを行う。実習を行うための実習先の理解と利用者を理解するための知識を習得する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 施設での職員の動きや一日の流れを知り、介護福祉士の役割を理解できる。 利用者の個別理解を深め生活支援のあり方が理解できる。また、介護の職業についての理解を深めることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	実習関連書類について①		
2	実習事前指導①		
3	事前訪問		
4	実習事前指導③		
5	実習中の振り返り①		
6	実習中の振り返り②		
7	介護実習Ⅰ－1振り返り①		
8	介護実習Ⅰ－2振り返り②		
9	事前訪問		
10	実習事前指導④		
11	実習中の振り返り③		
12	実習中の振り返り④		
13	介護実習Ⅰ－2振り返り③		
14	実習報告書作成		
15	実習報告会		
[使用テキスト・参考文献] ●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社		[単位認定の方法及び基準] 出欠席、課題レポート	

授 業 概 要			
介護総合演習Ⅲ	授業の種類		授業担当者
	演習		介護科専任教員
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	有 必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 入所施設で行われる実践的介護技術の修得を目指す。安全・安楽・自立支援に配慮した個別支援ができるためのアセスメント能力を身に付けることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 施設入所者に必要な日常生活支援技術の演習を行いながら、実践的な介護技術の修得が図れる能力を身に付ける。実習Ⅱに向けての事前学習</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 個別性に応じた、安全・安心・自立支援に向けた介護技術が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	実習Ⅰ-2の目的と理解 実習関連書類の作成		
2	事前訪問		
3	介護実習とリスクマネジメント		
4	個別性に配慮した介護技術の確認		
5	ICFを活用したアセスメント		
6	実習事前指導(実習の心構え、諸注意)		
7	実習中の振り返り①(帰校日指導)		
8	実習中の振り返り②(帰校日指導)		
9	介護実習Ⅰ-2の振り返り		
10	実習報告会(グループ発表)		
11	実習(実習Ⅱ)の目的の理解		
12	実習Ⅱに向けた課題研究①		
13	実習Ⅱに向けた課題研究②		
14	実習関連書類の作成		
15	事前訪問		
[使用テキスト・参考文献] ●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社		[単位認定の方法及び基準] 出欠席、課題レポート	

授 業 概 要			
介護総合演習Ⅳ	授業の種類		実務経験の有無
	演習		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 個別性に応じた介護過程の展開を図る。安全性や個別性に留意した支援を学ぶことにより、自立支援を目指すためには何が必要であるかの分析ができる力をつける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅱで受け持った事例を基に、ケーススタディを行う。受け持った事例から、新たな課題を導きだし、改めて客観的で科学的な視点で学びなおす。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 介護実習Ⅱで取り組んだ個別事例を基にケーススタディを行い、その成果をケースステディ集にまとめる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	記録の説明		
2	実習事前指導(実習の心構え、諸注意)		
3	実習中の振り返り①(帰校日指導)		
4	実習中の振り返り②(帰校日指導)		
5	「介護実習Ⅱ」の振り返り		
6	事例研究のまとめ 1		
7	事例研究のまとめ 2		
8	事例研究のまとめ 3		
9	事例研究のまとめ 4		
10	事例研究のまとめ 5		
11	事例研究発表 1		
12	事例研究発表 2		
13	事例研究発表 3		
14	事例研究発表 4		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社		[単位認定の方法及び基準] 出欠席、課題レポート	

授 業 概 要			
介護実習 I - 1	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
20日間	150	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>多様な障害形態を持つ利用者の方の生活を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設(通所施設)生活介護事業所等を利用される方との触れ合いから、生活支援の意味を考える。 ・利用者、職員、仲間同士などそれぞれにきちんと挨拶をし、適切なコミュニケーションをとるように努める。 ・認知症対応型協同生活介護(グループホーム)を利用される方との触れ合いから、認知症高齢者の理解を深めるとともに安心できる生活支援の意味を考える。 ・一日の流れを知る。 ・利用者の気持ちを理解することができる。 ・与えられた課題に積極的に取り組む。それを通して利用者の要求・思い、また職員の役割や思いを知るように努める。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義、演習、実技実習で学んだ知識や技術を用いて、施設で生活されている利用者の介護の実際を行う。利用者とのコミュニケーションをとり、援助関係を構築して利用者の介護ニーズを捉え、基本的な介護を行えるようにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>利用者の生活状況や思い込みなどに注意しながら、職員の動きや役割、施設の一日の流れを掴む。職場での基本的な倫理やマナーを身につけ、利用者との適切なコミュニケーションが図れるようにする。介護という仕事に向き合い、自分を見つめ直す。</p>			
<p>「実習の日程」</p> <p>1年後期 9月 高齢者施設(通所施設)生活介護事業所等75時間</p> <p>1年後期 11月 認知症対応型協同生活介護(グループホーム)75時間</p> <p style="text-align: right;">合計150時間</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする</p>	

授 業 概 要			
介護実習 I - 2	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
20日間	150	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者の個別性に応じた基礎的介護を、安全・安楽・自立に配慮して実施することができる。 他職種の役割を知り、医療・福祉の連携の方法を理解する。 専門職としての基本的な態度を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護に必要な観察ができる。 観察を基に情報収集ができる。 直接的介護技術の修得ができる。 レクリエーションの企画・実施・振り返りができる。 利用者の尊厳とプライバシーの重要性について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>基本的直接介護技術の修得(食事・入浴・排泄・移動・移乗・衣類の着脱等) 個別性に応じた介護技術の修得 利用者に必要な情報収集ができ、アセスメントシートに落とし込むことができる。</p>			
<p>「実習の日程」</p> <p>2年前期 5月上旬</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする</p>	

授 業 概 要			
介護実習Ⅱ	授業の種類		実務経験の有無
	実習		有
実習日数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
20日間	150	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護実習Ⅰ(1～3)で学んだことを基礎に介護実習を総合的に学ぶ。 介護過程の展開を学ぶ。 施設サービス全般を理解する。 チームの一員としての役割を学び、専門的援助行為や態度を形成する。 利用者の生活の質が向上するための援助ができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 利用者を受け持ち、必要な情報収集ができる。 情報からアセスメント、分析、介護計画の立案・実施・評価・見直しができる。 夜間実習を体験する。 メンバーシップ、リーダーシップがとれる。 専門的視点でケースカンファレンスに参加する。 情報の管理ができる。 倫理綱領に基づいた行動がとれる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 利用者のニーズに添った介護計画の実践をする。 介護過程の展開を行うことで、利用者に寄り添った介護を考えられるようになる。 介護福祉士の持つ役割と意義を考える。 利用者の尊厳を尊重した介護が考えることができる。</p>			
<p>「実習の日程」</p> <p>2年後期 9月中旬</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献] ●ワークで学ぶ介護実習・介護総合演習(株)みらい社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 各実習施設による評価と学内評価で総合評価とする</p>	

授 業 概 要			
発達と老化の理解 I	授業の種類		授業担当者
	講義		野浪実穂
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 自分の置かれた立場だけで物事を考える狭い視野の若者が増えている昨今、介護を専門とする援助者として、現場で支援を必要とする人たちが、どのような時代背景と心理的背景で生きてきたのかを洞察できるよう、人間の誕生から老後に至るライフサイクル(過程)での基本的な心理的機能・発達課題を理解することが、まず持ってベースになると考える。これを理解することにより、より良い介護支援が可能となることを教えていきたい。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間の成長を発達心理学的に考察することによって、全体の人間像が理解できるように組み立ててある。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 高齢者だけを断片的に見るのではなく、人間をトータル的に見えるからこそ理解できることがある。発達心理学的な観点からの考察が、援助者として、高齢者に思いやりがあり、深みのある人間として対応ができるようにすることが目標である。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	人間の成長と発達の基礎的理解 生長・発達をどうとらえるのか		
2	ライフサイクルとファミリーサイクル		
3	ライフサイクルと発達段階		
4	乳幼児期のころとからだ		
5	児童期のころとからだ		
6	青年期のころとからだ		
7	成人期のころとからだ		
8	老年期の発達と成熟 社会の老年の変化		
9	今日の老年期の社会的定義		
10	今日の老年観		
11	ライフサイクルのなかで老年期とはどのような時期なのか		
12	高齢者への聞き取り調査(学外学習)		
13	今の高齢者が生きてきた時代とは 1		
14	今の高齢者が生きてきた時代とは 2		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座11(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
発達と老化の理解 Ⅱ	授業の種類		授業担当者
	講義		野浪実穂
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 一人ひとりが介護を専門とする援助者として、現場で支援を必要とする人たちの気持ちを大切にしながら関わっていけるようにする。そのためにも、高齢者の心理的機能を理解し、多角的に高齢者を理解することができるよう、高齢者の心理的機能と問題点を理解することが必要である。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 老化によって発生する心理的な諸問題を理解していく中で、援助者として高齢者の心の動きに重点をおいた対応の仕方について学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 高齢者の心理だけでなく、自分の関わる人の心理的特性を学習・理解することで、より現場の実践に役立てられるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	老化に伴うこころとからだの変化と日常生活		
2	心身機能の老化の特徴		
3	身体機能の老化		
4	知的・認知機能の老化		
5	精神機能の老化		
6	心身機能の老化の特徴と日常生活への影響		
7	心身機能の老化を遅らせるのには何が効果的か		
8	高齢者の心理 1		
9	高齢者の心理 2		
10	高齢の疾病と生活上の留意点		
11	高齢者に多い症状と日常生活での留意点 1		
12	高齢者に多い症状と日常生活での留意点 2		
13	病気を持つ高齢者をみるときの介護福祉士と保健医療職の役割と連携		
14	事例から考えてみよう		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座11(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
認知症の理解 I	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	担当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症のしくみ、特徴を理解し、認知症支援のありかたを学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 医学的側面からみた認知症の基礎を理解したうえで、認知症支援のありかた、方法を認知症支援(介護)の理念を基に理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 認知症の基礎知識を理解し、認知症支援の理念を生かした支援を考えることができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	認知症を取り巻く状況 1		
2	認知症とは		
3	認知症支援(介護)の理念 (パーソンセンタド・ケアの視点から)		
4	医学的側面からみた認知症の基礎		
5	認知症の中核症状の理解1		
6	認知症の中核症状の理解2		
7	認知症の行動・心理症状の理解1		
8	認知症の行動心理症状の理解2		
9	認知症の原因疾患の理解(アルツハイマー型認知症)		
10	認知症の原因疾患の理解(脳血管性認知症)		
11	認知症の原因疾患の理解(レビー小体型, ピック病, その他)		
12	認知症の人への支援の原則・コミュニケーション		
13	認知症支援の基礎		
14	事例から考えてみよう		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座12(株)中央法規 ●その他 資料適宜配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 学期末試験やレポートの評価、出席・授業態度にて認定 (学期末試験90%、レポート5%、出席・授業態度5%)</p>	

授 業 概 要			
認知症の理解 II	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症支援の方法を事例を通して実践的に理解する。家族、地域との連携を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症に伴う心と体の変化と日常生活を理解し、各機関との連携や支援方法を認知症の種類、進行別事例を基に理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 認知症の種類、状態に合わせた支援方法を検討、実践できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		
2	認知症の人の体験の理解		
3	認知症の人の生活理解		
4	認知症の症状と環境の関係, 環境によるはたらきかけ		
5	若年性認知症の理解		
6	認知症の人を見守る地域との連携と協働		
7	家族への支援と認知症家族の会の連携		
8	認知症に関する制度・関係機関についての理解		
9	事例(アルツハイマー型認知症) 軽度・中等度		
10	事例(アルツハイマー型認知症) 高度		
11	事例(脳血管性認知症) 軽度・中等度		
12	事例(脳血管性認知症) 高度		
13	認知症の人への介護過程1		
14	認知症の人への介護過程2		
15	まとめ		
<p>[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座12(株)中央法規 ●その他 資料適宜配布</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] 学期末試験やレポートの評価、出席・授業態度にて認定 (学期末試験90%、レポート5%、出席・授業態度5%)</p>	

授 業 概 要			
障害の理解 I 精神の保健と障害	授業の種類		授業担当者
	講義		増谷千晶
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 現在は、障害の有無に関わらず、精神的に不健康な状態に陥りやすい社会であると言われている。そのような中、身近で様々な方たちと触れ合う介護職は、体の不調のみならず、心の状態にもいち早く気づくことが可能であり、その対応を期待される職種であると考え。そのための基本的知識の習得をめざす。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 精神保健の意義等を理解し、ライフサイクルや障害における特徴をとらえる。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 自分自身をも含めて、「人間として豊かな精神生活」とはどのようなものかを考え、それに向けての対応の仕方を工夫する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	精神障害の基礎理解		
2	精神保健の意義と役割・理念など		
3	児童期・思春期にみられる精神保健		
4	青年期にみられる特徴的な精神保健		
5	成人期にみられる精神保健		
6	老年期に見られる精神保健		
7	精神障害の概要 1		
8	精神障害の概要 2		
9	精神障害の概要 3		
10	家庭における精神保健		
11	学校教育現場における精神保健		
12	職場における精神保健		
13	地域における精神保健		
14	介護福祉士が関わる精神保健		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座13(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
障害の理解 II	授業の種類		授業担当者
	講義		牧坂 浩之
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	1年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] それぞれの障害を理解し、個々にあった援助方法が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] それぞれの障害の病態生理を理解し、安全で安楽な介護方法や残存機能を活用した自立支援の援助方法を学ぶ。それぞれの障害者の擬似体験を通し生活のしづらさを理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 事例検討を通して、それぞれの障害にあった具体的な援助方法が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	障害の基礎的理解 障害の概念 障害者福祉の基本理念		
2	障害による心理的影響と自己概念		
3	障害の医学的側面の基礎知識		
4	視覚障害者についての基本的理解		
5	視覚障害者の理解		
6	聴覚障害者についての基本的理解		
7	聴覚障害者の理解		
8	言葉に障がいのある人の理解		
9	発話や発音に障害を認める人の理解		
10	失語症を認める人の理解		
11	肢体不自由者の理解		
12	難病及び全介助を要する人の理解		
13	知的障害者の理解		
14	高次脳機能障害を認める人の理解		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座13(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
障害の理解 III	授業の種類		授業担当者
	講義		山中真智子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] それぞれの障害を理解し、個々にあった援助方法が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] それぞれの障害の病態生理を理解し、安全で安楽な介護方法や残存機能を活用した自立支援の援助方法を学ぶ。それぞれの障害者の擬似体験を通し生活のしづらさを理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 事例検討を通して、それぞれの障害にあった援助計画が立案でき、それに基づいた援助方法が理解できる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	内部障害者の定義と理解		
2	内部障害の理解①		
3	内部障害の理解②		
4	内部障害の理解③		
5	内部障害の理解④		
6	内部障害の理解⑤		
7	内部障害の理解⑥		
8	内部障害の理解⑦		
9	内部障害の理解⑧		
10	内部障害の理解⑨		
11	障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援		
12	連携と協働(地域におけるサポート体制)		
13	連携と協働(チームアプローチ)		
14	家族への支援		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座13(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
障害の理解Ⅳ 聴覚障害	授業の種類		授業担当者
	演習		萩原久美
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30	2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 初めて手話を学ぶ人たちのために、基本的な手話のなりたちや日常会話を学んでいく。また、単に手話技術だけに目を奪われるのではなく、ろうあ者の暮らしについても学習を深めていく。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日常会話を中心に展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 手話技能検定5級取得を目指す。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	聴覚障害の基礎知識		
2	手話の構成		
3	表現してみよう		
4	模倣してみよう		
5	指文字をおぼえよう		
6	手話の基本表現(感情表現)		
7	手話の基本表現(人物の表現)		
8	手話の基本表現(数・数詞、時の表し方)		
9	手話の基本文型(自己紹介をしてみよう)		
10	手話の基本文型(可能性・許可を表す文型)		
11	手話の基本文型(強調・義務・願望・希望を表す文型)		
12	手話の基本文型(未来・推量・仮定を表す文型)		
13	手話の基本文型(完了を表す文型)		
14	手話の基本文型(言葉や文をつなぐ文型)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●資料適宜配付		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
心理学	授業の種類		授業担当者
	講義		増谷千晶
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 人間の基本的なこころのしくみを理解させることにより、現時点での自分のこころのとらえ方と高齢者や障害者(児)自身のこころのとらえ方に大きな隔りがあることを認識させる。このことにより、高齢者や障害者(児)に対するこころの心理的側面への配慮ができる人間となるのである。</p> <p>[授業全体の内容の概要] あらゆる心理学の基礎的側面を学習することにより、高齢者や障害者(児)だけでなく、人間全体の心のあり方が理解できるように組み立ててある。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 高齢者や障害者(児)を介護する支援者には必要不可欠な心理学。介護を必要としている者が何を求め、どうしたいのかを冷静に洞察することができる介護福祉士を育てることを目標とする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	こころのしくみの基礎(1) こころのしくみに関する諸理論(心理学史)		
2	こころのしくみの基礎(2) 感情・情動		
3	こころのしくみの基礎(3) 知覚・認知		
4	こころのしくみの基礎(4) 学習		
5	こころのしくみの基礎(5) 記憶・知能・思考		
6	こころのしくみの基礎(6) 人格(パーソナリティ)		
7	こころのしくみの基礎(7) 適応・不適応		
8	こころのしくみの基礎(8) 個人と集団		
9	こころのしくみの基礎(9) こころの病理と健康		
10	人間の欲求の基本的理解(1) 動機づけ・欲求・帰属		
11	人間の欲求の基本的理解(2) 個人的欲求と社会的欲求		
12	自己概念と尊厳(1) 自己の二重性・自己概念に影響する要因・客体としての自己概念		
13	自己概念と尊厳(2) 主体としての自己概念・自立への意欲		
14	自己概念と尊厳(3) 自己実現といきがい		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●ライブラリー心の世界を学ぶ1 はじめてふれる心理学 (株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
からだのしくみ	授業の種類		授業担当者
	講義		原聖子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 「介護」という行為は対人援助を基盤とするものであり、対象となる人間を理解せずには成り立たない。人間理解に際し、欠かせない概念である精神と身体についてその基本的な意味と仕組みを理解して健康と病気を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 人間という存在は最も身近である一方、あらゆる面で最も不可解な対象でもある。容易に理解し難い人間を対象として活動する介護において、人間をどう読み解いていくか、そのために人間のこことからだの基本的な意味と仕組みに関する基礎知識及び視点と考え方について学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 人体の基本的な構造と機能を理解し、誕生からの発達・老化の過程で、生物学的な側面と社会的側面の両視点から人間を捉える必要性を理解する。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	「健康」とは何か		
2	こころのしくみを理解する(1)	人間の欲求とは ・ 自己実現と尊厳	
3	こころのしくみを理解する(2)	こころのしくみの基礎	
4	からだのしくみを理解する(1)	心身の調和 ・ 生命の維持と恒常性	
5	からだのしくみを理解する(2)	からだの部位の役割 ①	
6	からだのしくみを理解する(3)	からだの部位の役割 ②	
7	からだの動きを理解する(1)	加齢による機能低下 ・ 骨、関節の動き	
8	からだの動きを理解する(2)	筋肉の動き ・ 神経系のはたらき ・ ボディーメカニクスとは	
9	身じたくに関連したこことからだのしくみを理解する		
10	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
11	身じたくに関連した変化の気づきと対応		
12	移動に関連したこことからだのしくみを理解する		
13	心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
14	移動に関連した変化の気づきと対応		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座11(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
こころとからだのしくみ I	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
	講義	原聖子	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 介護の対象となる人間をこころとからだの統一体として理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日常生活の多様な活動において、それぞれの目的に応じたこころとからだの働きを知り、「介護」と関連させて理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 人体の基本的な構造と仕組みを理解し、日常生活の場面に応じたこころとからだの状況を考慮して介護活動に活かすことができる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する(1)		
2	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する(2)		
3	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する(3)		
4	食事に関連したこころとからだのしくみを理解する(4)		
5	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する(1)		
6	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する(2)		
7	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみを理解する(3)		
8	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する(1)		
9	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する(2)		
10	排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する(3)		
11	睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解する(1)		
12	睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解する(2)		
13	死に行く人に関連したこころとからだのしくみを理解する(1)		
14	死に行く人に関連したこころとからだのしくみを理解する(2)		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座11(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験、課題レポート	

授 業 概 要			
こころとからだのしくみⅡ	授業の種類		実務経験の有無
	講義		有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] プロの介護者として正しい医学情報把握により保健医療従事者と連携がとれるだけの医学知識を身につけるため、人体の基本的な構造や機能、代表的な疾患に関する概要を理解するとともに、保健医療に関する基礎知識を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 代表的な疾患に関する概要を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 保健医療従事者と連携がとれるだけの医学知識を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	神経疾患と難病の理解		
2	先天性疾患の理解		
3	その他の高齢者に多い疾患の理解		
4	終末期医療と緩和ケアの理解		
5	肢体不自由者の理解		
6	内部障害の理解		
7	知的障害の理解		
8	発達障害の理解		
9	認知症の理解		
10	高次脳機能障害の理解		
11	精神障害の理解		
12	健康の概念とプライマリケアについて		
13	感染対策の理解		
14	産業保健・歯科保健の理解		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●新・社会福祉士養成講座1(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
医療的ケア I	授業の種類		授業担当者
	講義		城戸 千景
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	1年 通年	必修
<p>喀痰吸引等制度と「医療的ケア」について理解し喀痰吸引が必要な状態を把握すると共に、安全な喀痰吸引ができるための知識の習得が図れる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 解剖・生理学の知識から、喀痰吸引が必要な疾患の理解や生理的状态の理解を深める授業内容を展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 喀痰吸引の技術習得に必要な知識が身に付く。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療的ケア実施の基礎①		
2	医療的ケア実施の基礎②		
3	医療的ケア実施の基礎③		
4	医療的ケア実施の基礎④		
5	医療的ケア実施の基礎⑤		
6	喀痰吸引基礎的知識①		
7	喀痰吸引基礎的知識②		
8	喀痰吸引基礎的知識③		
9	喀痰吸引基礎的知識④		
10	喀痰吸引基礎的知識⑤		
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順①		
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順②		
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順③		
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順④		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座15(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
医療的ケアⅡ	授業の種類		授業担当者
	講義		城戸 千景
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 感染予防の基礎知識と介護職自身の健康管理・感染予防について理解し、経管栄養が必要な状態を把握することができ、かつ安全な介助ができるための知識の習得が図れる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 解剖・生理学の知識から、経管栄養が必要な疾患の理解や生理的状态の理解を深める授業内容を展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 経管栄養の技術習得に必要な知識が身に付く。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	医療的ケア実施の基礎⑥		
2	医療的ケア実施の基礎⑦		
3	医療的ケア実施の基礎⑧		
4	医療的ケア実施の基礎⑨		
5	経管栄養の基礎知識①		
6	経管栄養の基礎知識②		
7	経管栄養の基礎知識③		
8	経管栄養の基礎知識④		
9	経管栄養の基礎知識⑤		
10	障害児・者の経管栄養の実施手順①		
11	障害児・者の経管栄養の実施手順②		
12	障害児・者の経管栄養の実施手順③		
13	障害児・者の経管栄養の実施手順④		
14	障害児・者の経管栄養の実施手順⑤		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座15(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
医療的ケアⅢ	授業の種類		授業担当者
	講義		原聖子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
8回	15	2年 通年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい] 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の習得のための知識を身に付けることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 喀痰吸引、経管栄養の手順を1つ1つ理解していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の知識が身に付く。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	喀痰吸引の手技の理解①		
2	喀痰吸引の手技の理解②		
3	喀痰吸引の手技の理解③		
4	喀痰吸引の手技の理解④		
5	経管栄養の手技の理解①		
6	経管栄養の手技の理解②		
7	経管栄養の手技の理解③		
8	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座15(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 定期試験	

授 業 概 要			
医療的ケアIV	授業の種類		授業担当者
	演習		原聖子
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
8回	15	2年 通年	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の習得のための技術を身に付けることができる。救急蘇生法を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 喀痰吸引、経管栄養の手順を1つ1つ理解していく。救急蘇生法の演習を行う。</p> <p>[授業終了時の達成課題] 喀痰吸引、経管栄養の具体的な手技の技術が身に付く。救急蘇生法の技術が身に付く。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
回	内容・備考		
1	喀痰吸引の手技の実際①		
2	喀痰吸引の手技の実際②		
3	喀痰吸引の手技の実際③		
4	救急蘇生法演習		
5	経管栄養の手技の実際①		
6	経管栄養の手技の実際②		
7	経管栄養の手技の実際③		
8	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] ●最新・介護福祉士養成講座15(株)中央法規		[単位認定の方法及び基準] 実技試験	